

誌上 舞台 文楽

太夫と三味線の演奏する義太夫節に合わせ、人形(3人遣い)が芝居を演じる人形浄瑠璃の一つ。江戸初期、道頓堀の竹本座ではじまった。2003年、ユネスコの世界無形遺産登録。

文楽 太夫



竹本文字久大夫(たけもとひさだゆう)

三重県出身。大学で演劇を専攻し、在学中に新国劇に入団。舞台俳優として出発する。邦楽への興味をきっかけに文楽への転身を決意。昭和55年、文楽養成7期生となり、57年に七世竹本住大夫入門。同年7月、大阪朝日座「彦山権現誓助剱」杉坂墓所「弥三松」で初舞台。平成6年文楽協会賞、9年国立劇場文楽奨励賞など。

数ある近松門左衛門の心中物の中で最高峰とされるのが本作。享保5年(1720)10月、網島であつた情死事件を題材としています。

『曾根崎心中』は近松の大ヒット作ですが、文学性では『心中天網島』が上回るといいます。冒頭にある小春のクドキ(サワリ)から、

へお前様の推量のとおり紙治様と死ぬる約束、親方にせかれて、

と、わざと「結末は心中」だと明かしてはいますが、最後まで観客を飽きさせない力があります。それは心理描写の巧みさです。不出来な弟を諭す兄の情、立場を越えて女ゆえの苦しみを理解し互いに義理立てするおさんと小春。

女二人の義理と意地が切ない 心中天網島

案内人 竹本文字久大夫

「300年前も今も人の心は同じ」と誰もが共感できる普遍性があるからこそ、心打たれるんやと思います。

この小春のクドキは文楽の義太夫節に、繁太夫節という珍しい節回しが入れられていますので、ぜひお聴き逃しのないように。

また、そこかしこに散りばめられた縁語も含蓄がありますよ。題名は、実際に二人が命を絶つた網島と、どんなにもがいても天罰や法の網からは逃れられんという二重の意味。天神さんの門前で紙屋を営む治兵衛が、神仏や商いを疎かにして、神無月(10月)に遊女と死ぬ。小春は10月の異称でカギになるのは手紙(起請、誓紙)などなど。

この奥深い作品世界を心で感じ取ってもらえるよう語るのが太夫。と言うても私はまだまだだ…。

物語のあらすじ

文楽「心中天網島」

紙屋治兵衛は曾根崎新地の遊女小春と愛し合い、あの世で添い遂げようと心中の約束を交わしています。

心配した治兵衛の兄の孫右衛門は小春の本性を探りに行き、心配した治兵衛は「死にたくない」と小春が打ち明けるのを偶然立ち聞きした治兵衛は逆上し、別れを告げます。実は小春は治兵衛の妻おさんから手紙をもらい、わざと嘘をついたのです。後日、おさんは小春が意に染まぬ相手に身請けされると知り、治兵衛にすべてを打ち明け、身請け金を工面しようとします。しかし治兵衛を快く思わない父親に実家へ連れ戻されてしまいます。

八方塞がりになった治兵衛は小春と網島で心中を遂げるのでした。



二人は曾根崎新地から網島まで橋の名をたどりつつ心中の道行きへ。



貞広画「大川天神橋天満橋」(浪華風景之内) 大阪府立中之島図書館提供

文楽を楽しみに行きませんか

●開場25周年記念 錦秋公演

10月31日(土)~11月23日(祝) ※11月12日(木)は休演。

1等:一般5800円・学生4100円

2等:一般・学生とも2300円

第1部:午前11時開演「心中天網島」

第2部:午後4時開演「芦屋道満大内鑑」

※11月13日(金)より1部と2部の演目を入替。

会場/国立文楽劇場

交通/地下鉄・近鉄「日本橋」下車

☎06-6212-2531 (同劇場) <http://www.ntj.jac.go.jp/>